福岡県の主な農産物の生産状況

令和４年８月 19 日現在
（専技情報より抜粋）

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇
４月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べて早く、収穫は８月８日頃から開始され、８月 15 日から収穫作業が本格化しています。
穂数が平年より多く、収量は平年並み～やや多いと見込まれますが、登熟期が高温で経過したため、白未熟粒の発生が前年より多い見込みです。
また、イネカメムシによる吸汁害の発生も一部で見られ、収量及び品質の低下が懸念されます。
気温が高い日が続いているため、刈り遅れにならないよう適期に収穫を行いましょう。
収穫後は直ちに、適切な乾燥を行いましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇
出穂期は、６月 10 日植「夢つくし」が８月６日、６月中旬植「元気つくし」が８月 17 日頃で、平年より２日程度早いです。
トビイロウンカ、コブノメイガの発生は平年より少ないですが、葉いもちやイネカメムシの発生は一部地域でやや多いです。
「夢つくし」の成熟期は、平年よりやや早くなると予想され、収穫は９月中旬が最盛期となる見込みです。
間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。
用水不足の地域は、計画配水を実施し、特に、出穂・開花期の水は切らさないよう努めましょう。
台風通過時は、深水管理としましょう。
中生以降の品種では、トビイロウンカ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類の発生に留意し、適期に対策を行いましょう。

◇大豆◇
播種は、平年に比べて早く、７月末までにほぼ終了しています。
播種後の降雨により一部で発芽不良が発生し、再播種を行ったほ場もありますが、全体的に出芽は良好です。
高温多照により生育は平年よりやや早く、順調ですが、降雨が非常に少ない地域では生育量がやや少ないです。

開花期は平年より早く、６月下旬播種で８月 12 日頃、７月 10 日播種で８月 18 日頃、７月 25 日播種で、８月 30 日頃と予想されます。
まとまった降雨に備えるため、うね溝と排水溝の整備を行い、排水対策を徹底しましょう。
開花期までに中耕・培土を行いましょう。
生育量が少なく、葉の黄化が見られるほ場では、追肥により生育を回復させましょう。

◇アスパラガス◇
夏芽の出荷は、６月下旬がピークとなり、7 月下旬にかけて出荷が続き、その後は徐々に減少しています。10 月下旬までの出荷予定です。高温により草勢が低下しており細茎傾向です。曲がりや穂先の開きなどが見られます。
病害虫は、高温、乾燥によりハダニ類、ヨトウ類等の害虫の発生が多いです。また、斑点性病害が散見されます。
引き続き、換気、かん水の徹底等、高温対策を行い、草勢回復を図りましょう。また、害虫防除を徹底しましょう。
台風対策等で、ハウス内を蒸し込んだ後は、病気が発生しやすいため、十分に換気し、予防対策を行いましょう。

◇ブドウ◇
「巨峰」、「ピオーネ」は、加温、無加温ハウスの出荷が終了しています。無加温ハウスで着色がやや不良です。現在、トンネル、露地が出荷中で、果実肥大は良好ですが、高温傾向のため、着色がやや不良で、出荷が遅れ気味です。
収穫が遅れると、晩腐病の発生につながるので、適期収穫に心がけましょう。
収穫後は、べと病、トラカミキリ等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇ナシ◇
露地「幸水」は、出荷開始が７月末でやや遅く、終了が８月上旬で平年並です。一部晩霜害による結実不良やリング状の傷果が見られましたが、果実肥大、果実糖度はともに良好で、収量は平年並です。
露地「豊水」の出荷は、平年並の８月盆明け後から開始予定です。
収穫は、病害虫被害果、日焼け果、水浸果に留意し、果実品質等の状況をみながら、適期に行いましょう。
収穫後の果実は、直射日光を避け、品温上昇を防ぐ対策を講じましょう。
今後、ヤガ、シンクイ、カメムシの発生状況に留意し、早めの対策を行いましょう。

◇施設ギク◇
「精の一世」「フローラル優香」等の夏秋ギクが出荷中です。お盆向けの出荷作型は、梅雨明けが早く、花芽発達の初期段階での高温遭遇により、開花が遅延する傾向です。そのため出荷ピークは８月５日～８日とやや遅く、お盆以降に出荷が残る見込みです。
輸入の減少からスプレーギクの単価が安定しているため、一部で輪ギクから転換する動きが見られます。
高温時の定植や直挿し栽培では、予定日の３日前までには、寒冷紗等を被覆し、施設内の地温を低下させましょう。
活着までの１～２週間程度は、十分なかん水を行いましょう。
定植用の穂は採穂前の殺菌を徹底し、苗立枯症対策を徹底しましょう。

◇ホオズキ◇
お盆用の切り花長は、福岡地区では少雨により平年より短く、京築地区は 120～130 ㎝を確保し、実付き・着色とも良好です。
一部で白絹病が発生したものの順調に出荷しています。
切り下株から次年度用の地下茎を採取するため、株全体が黄化する 10 月頃までは、スリップス・斑点細菌病等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
牛枝肉単価は、コロナ感染症者数の増加（第７波）により外食需要が低調で、和牛去勢、省令価格ともに前年を下回りました。
豚枝肉価格は、国内供給が低位に推移していることや輸入豚肉からの代替需要で前年比、過去 5 年平均比ともに上回りました。
鶏卵価格は、季節的に不需要期に入ったため、余剰が出ており、供給量不足で高値だった前年を下回りますが、過去 5 年平均比では高値を維持しています。
高温多湿で低下する飼料摂取量確保のため、十分な給水、送風や遮光、ビタミンやミネラルの補給等の暑熱対策を徹底しましょう。